

「安全目標」再考 (2) 価値の相克に向き合う

Safety Goals: Revisited

(2) Addressing contested societal values

*菅原 慎悦¹, 山口 彰², 佐治 悦郎³, 千歳 敬子⁴, 浦田 茂⁵, 前原 啓吾⁶, 竹内 純子⁷

¹電中研, ²東大, ³MHI NS エンジ, ⁴原安進, ⁵原子力エンジ, ⁶関西電力, ⁷国際環境経済研究所

抄録：安全目標とは原子力のリスク管理に係る「社会との約束事」であると解せば、その設定・活用において社会との相互作用が不可欠である。科学的・技術的な専門知を参照するのみならず、社会が示す様々な価値の相克に向き合い、その上で「我々にとっての『安全』とは何か」について責任ある決断を下すことが、リスク管理者の重要な役割であることを論ずる。

キーワード：安全目標、ALARP、リスクマネジメント

安全目標は、原子力安全をめぐる根源的な問いである“*How safe is safe enough?*”に正面から答えようとする営みとして、国内外で議論が進められてきた。米国のように定性的目標・定量的目標を政策宣言として明確に定めている国もあれば、英国のように ALARP (As Low As Reasonable Practicable) という抽象度の高い原則を運用する上での目安として定量的リスク値を示している国もある。このように安全目標の位置付けや性格は様々だが、各国の経験からは、安全目標の設定には下記の点が鍵となることが示唆される。

- 1) 「安全」という概念自体に、様々なトレードオフや価値判断が含まれていることを認めること。
- 2) 安全目標を定めることは、その価値判断をめぐって関係主体が議論を尽くした上で、「我々にとっての『安全』とは何か」を定義することに他ならないこと。
- 3) 安全目標を定め運用しようとするリスク管理者は、科学的・技術的な専門知を踏まえるのみならず、社会が示す様々な価値の相克に向き合う役割を、正面から引き受けること。

近年の我が国における安全目標の議論では、安全目標の代替目標 (surrogate) である炉心損傷頻度や大規模放出事故の発生頻度の定量的な値に注目が集まる一方、より上位の目標である安全確保活動の「広さ」(考慮すべきリスクの種類や対象範囲等) に関する社会的議論が充分に行われてきたとは言いがたい。福島原子力事故の影響に鑑みれば、様々な事故調査・分析が示すように、従来の安全目標の議論で扱われてきた放射線による直接的健康影響にとどまらず、長期避難等に伴う社会的・経済的・精神的影響が甚大であった。この苦い現実を踏まえれば、何を被害のエンドポイントと設定するのか、どのような価値がどのような被害から護られることが重要か、という点から改めて議論を行う必要があると考えられる。

加えて、社会的なリスク管理者の姿が見えないこともまた、我が国における安全目標の議論を一層不透明なものとしている。国際的な共通理解となっているように、原子力施設の安全確保に関する一義的責任は原子力事業者にあり、当該原子力事業のリスク管理者は紛れもなく事業者である。同時に、事業者のリスク管理活動が公衆・環境・社会活動等を保護する観点から適切かどうかを確認するのは、主として規制当局の役割である。いわば、規制当局とは「社会としてのリスク管理者」であり、科学的・技術的な専門知を参照することに加え、社会に存在する多様な価値にも目を向けることが求められる。これら諸価値は、互いに相克し合い、また専門知からの示唆と矛盾することもしばしばであり、決して一筋縄でいくものではない。しかし、“Clumsy institution”の概念が示すように[1]、リスク管理を担う公的な機関は、科学・技術的専門知の領域のみに自らの役割を限定せず、これらの相克や矛盾にもがき苦しみ、ごちない姿を晒すことになっても、「一筋縄でいかなさ」に正面から向き合う責務を引き受けることが欠かせない。

安全目標の設定とは、「科学」の世界からのみ導かれる美しい営みではなく、泥臭く、ときに苦痛を伴いながらも、同時に、諸価値の調和を目指す高尚な公共的取組であると認識することが有用である。

参考文献

[1] M. Shapiro, Judicial selection and the design of clumsy institutions, *Southern California Law Review*, 61, 1988, 1555-1569.

*Shin-etsu Sugawara¹, Akira Yamaguchi², Etsuro Saji³, Keiko Chitose⁴, Shigeru Urata⁵, Keigo Maehara⁶, Sumiko Takeuchi⁷

¹CRIEPI, ²Univ. of Tokyo, ³MHI NSE, ⁴JANSI, ⁵NEL, ⁶KEPCO, ⁷IEEI